



YU

山口大学広報誌 2010.3月号 NO.94
Information
ワイユ- インフォメーション

新入生特集
熱烈歓迎! 新山大生

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yu/>

ようこそ! 山口大学へ

ようこそ山口大学へ

人文学部人文社会学科 3年
森 智志

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
皆さんが心より「この大学でよかった!」と思って過ごせることを願います。



新留学生へ

工学部知能情報工学科 4年
VILIVONG Meckhali
(ヴィリヴォン メックカリ)

留学中に留学生の友達だけでなく日本の友達もつくり、仲良くして大学生活を楽しみ、できるだけ日本でのいい思い出を作りましょう。



自分の未来は自分で創れ!

教育学部総合文化教育課程
国際文化コース 2年
杉本 大伸

自分の未来を創るのは自分自身です。今までに経験できなかったことを経験し、充実した大学生活を送り、自分の未来を切り開いていってください。



学生のうちに

経済学部経営学科 2年
田中 恵

新入生の皆さんこんにちは。
私は硬式庭球部に所属し、2年間で楽しい思い出がたくさんできました。皆さんもやりたいことを見つけて素敵な大学生活を送ってください。



第一に計画を!

理学部物理・情報科学科 3年
山下 創史

入学おめでとうございます。
大学に入学したらまずは卒業するまでの計画を立てましょう。そうすることで、大学生活をより一層有意義に過ごせるでしょう。



山口大学へようこそ!

教育学部学校教育教員養成課程
教科教育コース社会科教育選修 2年
網本 翔太

学習内容はもちろん、部活や行事、学食のメニューにいたるまで、君を満足させること間違いなし! 充実した学校生活を楽しもう!



新入生に向けて

医学部医学科 2年
西本 拓真

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
山口大学に入ったからこそ味わえる経験をたくさんして、山口大学での学生生活を謳歌してください。



目標を持つ!!

医学部保健学科
検査技術科学専攻 2年
川野 伶緒

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。
大学生活において重要なのは、将来を見据えて明確な目標を持つことです。まずは些細なことで構わないので、目標を持って楽しい大学生活にしてください。



～在学生からのメッセージ～



**ご入学
おめでとうございます**

工学部循環環境工学科 3年
藤田 貴宏

新しいことへの挑戦やサークル・部活への参加など積極的に何かアクションを起こすことがあなたの大学生活を充実させると思っています。私自身の経験からです。



楽しくチャレンジ

農学部獣医学科 3年
兼松 尚史

入学おめでとうございます。これからの大学生活、いろいろなことにチャレンジしてみてください。そして、せっかくやるからには楽しくいきましょう!!



**生物・化学科
略して生化!!**

理学部生物・化学科生物コース 3年
松田 和也

入学おめでとう。
生化では生物や化学の基礎を学ぶけど、段々と難しくなるので、最初の1年はしっかり勉強するようにね。実験も大変だけど、楽しいよ!



新入生! 歓迎! 経済学部経済学科 2年
林 健太郎

ご入学おめでとうございます。大学は自分から積極的に行動することが重要だと思います。実りの多い大学生活になるよう頑張ってください。



ご入学おめでとうございます!

農学部生物資源環境科学科 3年
神松 梨紗

大学生活はのんびりしているようで短い! 1年時が一番時間にゆとりがあるので、その間にいろんな事にチャレンジしたらいいと思いますよ^^



**やりたいこと
を見つけてください**

人文学部言語文化学科
ドイツ語・ドイツ文学コース 3年
中島 梓

4年間まるごと、夢中になれるものを見つけてください。皆さんがそれぞれ“山大に入って良かった”と思えるものと出会えることを祈っています。ご入学おめでとうございます。



夢に向かって!

工学部電気電子工学科 4年
FARIDAH (ファリダ)

留学生にとって最初は大変だと思いますが、何か困ったら一人で悩まず、周りの人に相談しましょう。自分のペースで良いので、夢に向かって自分を磨いていける大学生活を送ってください。



ご入学おめでとうございます

工学部知能情報工学科 3年
西田 弘輝

新入生のみなさんならびに保護者の皆さま、この度は山口大学へのご入学まことにおめでとうございます。

大学では人のつながりが大事になってきます。積極的に人と接して有意義な大学生活を送りましょう。



留学体験記 協定校交換留学

ドイツ留学

太田 有香

教育学部総合文化教育課程国際文化コース 4年
留学先：エアランゲン・ニュルンベルク大学(ドイツ)
留学期間：2008年9月～2009年8月



私はドイツのバイエルン州にあるエアランゲン大学へ交換留学してきました。初めての一人暮らしが海外ということもあり、不安もいっぱいありました。が、この1年間で精神的に強くなったように思います。

最初の1カ月間は困ったときに英語を使っていたのですが、時間が経つにつれて会話も全てドイツ語でこなせるようになり、ドイツ語の勉強が楽しくなってきたのを覚えています。ドイツでは電車だけで外国に行けるという地理的条件から、勉強以外の時は友達と一緒にオランダやフランス、オーストリアなどに旅行してきました。今まで教科書やテレビでしか知らなかったヨーロッパの文化や風景を目の当たりにして、新たに視野を広げることができました。そして念願だったドイツ平和村への訪問も果たし、戦争で怪我を負った子どもたちと交流ができ、平和の大切さを考えさせられました。

生活面においては特に困ったことはありませんでした。エアランゲンにはアジアンショップが5つもあるため、お米や味噌、のりなども買うことができるので便利だと思いました。

ホームシックにかかったり銀行のカードを紛失したりして、いろいろと大変な1年でしたが、この留学期間中に学んだことや感じたことは、きっとこれから役に立つと私は思います。



サッカー観戦



エアランゲンのクリスマスマーケット

本当のコミュニケーション

岡 麻実

経済学部観光政策学科 3年
留学先：オクラホマ大学 (アメリカ)
留学期間：2008年8月～2009年5月



私は大学2年生の8月から3年生の5月までの10カ月間、アメリカのオクラホマ大学に交換留学をさせてもらいました。その中で一番の収穫は、“本当のコミュニケーション”が取れるようになったということです。

日本にいた頃は、「自分のコミュニケーション能力は高い」と勝手に思い込んでいました。アメリカでの生活が始まった当初も、英語で相手に思いを伝えることの難しさにとまどいを感じましたが、パーティー会場や学校で出会ったりした人に拙い英語で話しかけて、積極的に友達を増やしていきました。しかし、一度にたくさんの人が集まり会話をする機会が多くなると、その状況は変わっていきました。皆の会話の内容を何とか理解できても、その時に自分が思っている気持ちを瞬時に伝えられない、話の輪に入れないという悔しくもどかしい思いをたくさんするようになったのです。そして、それまでは自分の思いを伝えることに一生懸命で、会話の中で人の思いをしっかりと受け止めることが不足していたのではないかと気づきました。

それからは、ただ人の話を聞くのではなく、相手の気持ちをくみ取りながら話を聞くことを意識するようになりました。これは私がオクラホマで学んだ英語や異文化理解の大切さ以上に大きな収穫だと思っています。そのとき感じた、もっと話をしたい・悔しいという思いが、さらなる英語力の上達に向けて努力する源ともなっています。そして、異文化を持つ外国人とも本当の意味でのコミュニケーションが取れるようになりたいと思います。



Japanese Student Association (日本文化に興味のある学生が集まった組織)のメンバーと(前列右端が筆者)

協定校交換留学

山口大学では、平成22年2月1日現在、11カ国35大学と大学間協定を、12カ国42大学等と学部等間協定を締結しています。この学術交流協定に基づき協定校に1年以内の留学をする場合は、休学をする必要がなく、また、留学先の大学の授業料は原則として免除されます。

協定校で取得した単位は、所属学部が認める範囲で、本学で履修したものとして単位認定されます。

海外短期語学研修

山口大学では、夏休みや春休みの約1カ月間を利用した、英語、中国語、ハンガルの海外語学研修を実施しています。研修先の大学は、山口大学との協定校で、カナダ、オーストラリア、イギリス、中国、韓国の大学で研修することができます。

なお、この研修では、事前研修を受講した上で現地研修に参加した場合、「海外語学研修(英語、中国語、ハンガール)」の4単位が認定されます。

▶ 問い合わせ先

学生支援部学生支援課留学生交流係
TEL : 083-933-5982
E-mail : ga142@yamaguchi-u.ac.jp
URL : <http://www.isc.yamaguchi-u.ac.jp/>

海外短期語学研修

9と3/4 (追加料金が発生しますか?)

佃 寛介

大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻 1年
 留学先：UCL (ロンドン大学) (イギリス)
 留学期間：2009年8月～2009年9月

私がUCLの語学研修に参加した理由は、英語をある程度聞き取ることができても、自由に話すことができなかったためです。

普段、工学部の留学生と楽しく英語で会話しようというサークル (EFC) で活動していますが、活動の中で非常にもどかしい思いをしていました。そこで私はこの状況を改善すべく、今回の研修に参加しました。

研修では、英語で表現するときのコツを掴めたと思います。それは、(当たり前のことですが)言い方が分からなければ、遠回しにでも簡単な単語を用いて表現し、何とか伝えようとするということです。そうすれば必ず相手は分かるようになってくれます。例えば、ハリー・ポッターで出てきたキングスクロス駅で、9と3/4番線に行きたかった時、3/4の表現に自信がないために駅員さんに「ハリー・ポッターに会いたいです」と伝え、笑いながら教えてくれました。この一件以降、言い換えて何とか伝えようとするクセが付き、帰国後、EFCで英語を話す、表現もそうですが、聞き取り、スピードも全体的に上達したねと言われました。

ロンドンには観光地、ライブ、買い物、ミュージカルなどさまざまなアトラクションがあり、滞在は非常に充実したものとなりました。最終的には、現地の人と日常会話ができるくらいになり、今後はこの貴重な経験を活かし、社会に貢献していけたらと思います。

余談ですが食事の注文時は、「Pay more? (それは追加料金が発生しますか?)」というフレーズが役立ちます。お店では、店員が「これもつけとくか? 焼くか?」と色々早口で聞いてきます。焦りから適当に返事をすると、思っていた値段よりすごく高いことが多いです。



北京師範大学短期語学研修

高橋 愉寿

人文学部言語文化学科 2年
 留学先：北京師範大学 (中国)
 留学期間：2009年8月～2009年9月



私は2年生の夏休みに、約1カ月間中国の北京師範大学に短期語学研修に行きました。1カ月という短期間で何がしたいかは人それぞれだと思いますが、私の場合は語学の勉強以外にも、とにかく遊びました。

北京師範大学のプログラムでは、授業は午前中のみで午後からはフリーでしたので、とにかくいろいろな所を観光しました。授業では韓国やポーランドなどから来られた方と知り合うことができ、とても刺激的でした。また、留学中に一人で行動をした時、バスや地下鉄を乗りこなせたことは自信になりましたが、中国語で街行く人々と会話をしたときに自分の発音が全く通用しないことも思い知らされました。

滞在中に私が最も強烈に記憶しているのは、新型インフルエンザの影響により隔離されたことです。深夜の2時を回った頃、大学の寮の前に救急車が7～8台並び、研修生が5、6人ずつ乗せられ郊外のホテルに連れて行かれました。そこでは、体温測定をされてマスクを渡され、外には出るなどと言われて、何もすることがなく、知り合った他の研修生とゲームなどをして過ごしました。この影響で5日間、授業や雑技鑑賞やその他の観光もできなくなってしまい、2週間コースの研修生は半分が軟禁生活となってしまいました。私にとっては良くも悪くも、初の海外渡航でそのような特異な状況下に置かれ、他の国の方々と過ごしたということが、なかなか得難い経験として残っています。

今振り返ると、語学力が向上したという実感はまだありませんが、その後の語学に対する学習意欲はとて高まり、また、中国のみならずいろいろな国の方と交流をしたいという気持ちが強くなったことは、私の大学生活や今後の人生に対する意識に大きな変化をもたらしました。また、英語はやっておくべきだと思いました。中国に限らないと思いますが、「こいつは中国語 (母国語) が理解できないな」と分かると、英語で話しかけてくれることが多いと感じたからであり、また、欧米系の観光客に話しかけられることもあったからです。



オリンピック公園にて



とあるお店で店員さんと

ピックアップサークル

目標は五大優勝、中四連覇！



右端が筆者

小川 翔平

器械体操部
人文学部人文社会学科 2年

私たち器械体操部は、「五大（中国五大学学生競技大会）優勝」を部の目標として、日々、練習に励んでいます。現在、五大優勝奪還、中四（中四国学生体操競技大会）連覇を目指して、みんな一生懸命練習しています。

ところで、器械体操をご存知ですか？私たちと同世代の内村航平選手が活躍しているあれです。同世代として、彼の活躍に奮起させられた人も多いのではないのでしょうか？そんな器械体操が、山口大学でもできるのです！

器械体操は男子6種目、女子4種目あり、それぞれの種目に違った面白さがあります。練習はうまくいかないことも多く大変ですが、新しい技ができるようになったときの喜びは格別です。

部員みんな仲がよく、先輩たちはとっても優しいです。少しでも器械体操に興味を持った人は、第1体育館まで気軽に遊びに来てください。待ってます！



練習場所：第1体育館

練習日：月16:00~19:00、火17:00~19:00、
水~金19:00~22:00、土14:00~18:00

主な成績：第42回中国四国学生体操競技大会
団体優勝、個人総合入賞、種目別入賞 など

山の魅力



松田 翼

山岳部 主将
経済学部経営学科 3年

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんはこれから始まる大学生活に期待や不安でいっぱいだと思います。皆さんご存じのように大学生活は自由で、サークル、アルバイトなどさまざまなことが経験できます。そして、部活に入ることも大学生活でしかできない貴重な経験を積む一つの道だと思います。

さて、山岳部と聞いて何を思い浮かべますか？

きつい…そう、山を登っているときはきついです。「もう絶対やめてやる！」って思うくらい辛いです。

危ない…確かに山に危険はつきものです。ただ、そのリスクをどう減らしていくか、考えながら活動しています。

達成感…これがなくては始まりません！山頂に立ったとき、仲間と辛いことを乗り越えたとき、ともに考え失敗し励まし合ったときなど、普段の大学生活では経験できない「非日常」を感じることができます。それがやりがいです。

山岳部は週3回程度学内で体力トレーニングを行っており、夏、春休みなどの長期休暇を利用して1~2週間程度合宿に行きます。その他、季節ごとに短期の合宿やロッククライミングなどもしています。



秋山合宿 in 久住山

練習場所：大学周辺ランニングコース（体力トレ）、
部室周辺（筋トレ）

練習日：月・水・金 16:00~または18:00~

ピックアップサークル

柔道一直線



竹邊 拓実

柔道部
経済学部経済学科 2年

新入生のみなさんご入学おめでとうございます。皆さんはきっとこれから多くの出会いがあり、たくさんの経験をしていくことでしょう。

私たち山口大学柔道部は、毎週5～6日2時間程度、大学内の第一武道場で活動しています。柔道部というイメージはきつそう、恐そう、痛そうなどマイナスなものを想像しがちですが、そんなことはありません。部の雰囲気はとてもアットホームな感じでみんな面白く優しい人ばかりです。もちろん練習は真剣に取り組んでいて、練習後はみんなでご飯を食べに行ったり、飲みに行ったり、休みの日も遊んだりしていて、この点は高校までの部活とは少し違う点だと思います。また、警察官になりたい、黒帯を締めてみたい、強くなりたいなどの理由で大学から柔道を始める初心者も少なくありません。

昨年の柔道部は、全国国立大学柔道優勝大会で6年ぶりのベスト16、また中国五大学学生競技大会で38年ぶり4度目の優勝を飾りました。また、その他の試合でも好成績を残し、今ノリにのっている部活です。

今年もその流れを引き継ぎ、日々精進していきたいと思います。



練習場所：第1武道場
練習日：月・金17:00～19:00、火・木18:00～20:00、土13:00～15:00
URL：<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~judo/>

ラグビー部



渡邊 恵至

ラグビー部
経済学部経済法学科 2年

ラグビー部は、昨年の中国五大学学生競技大会にて、目標であった優勝をこのたび達成することができました。これは毎年の目標であり、そのためにラグビー部は日々練習してきました。

ラグビー部の活動として、練習場所はラグビー場であり、月、水、土曜日の週3回練習をしています。月、水曜日は夕方4時半から、土曜日は朝10時から練習開始です。また、工学部の部員もいるので、宇部のキャンパスへ行って練習することもあります。

練習内容は、ボールを使っての試合形式の練習やスタミナをつけるためのランメニュー、怪我をしないための体作りとして筋トレを行っています。

ラグビー部の特徴として、時には厳しい練習但也有ありますが、先輩と後輩の仲はとてもよく、厳しい上下関係というものもなく、和やかで楽しい活動をしています。

今年は、中国五大学学生競技大会の連覇を目指して、頑張りたいと思います。



練習場所：ラグビー場
練習日：月・水16:30～、土10:00～
URL：<http://yurfc.web.fc2.com/>

ピックアップサークル

山口大学管弦楽団



矢羽田 章博

管弦楽団
農学部生物機能化学科 2年

山口大学管弦楽団の紹介をさせていただきます。管弦楽と聞くと、聞きなれない方もいると思いますが、漫画やドラマで知られている「のだめカンタービレ」で有名な「オーケストラ」のことです。

オーケストラは、バイオリンやチェロなどの弦楽器、オーボエやクラリネットなどの木管楽器、トランペットやチューバなどの金管楽器、ティンパニなどの打楽器といったさまざまな楽器で音楽を作り上げていくものです。

私たち、山口大学管弦楽団は冬に行う定期演奏会、春には山口大学医・工学部管弦楽団と合同で行う合同演奏会という2回の大きな演奏会に向けて日々練習に励んでいます。音楽に少しでも興味がある方はぜひ演奏会にいらしてください。部員一同心よりお待ちしております。

また、上記の活動だけではなく弦楽器だけの室内管弦楽団による演奏会も夏に行っていますので、そちらにもよろしければ足を運んでくださるとうれしいです。



練習日：火・木曜日 18:00~20:30、
土曜日 17:00~20:00
練習場所：音楽練習棟
URL：<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuo/>

闇の世界、未知の世界



大藪 一雄

洞穴研究会
人文学部人文社会学科 1年

こんにちは！私たち洞穴研究会は、洞窟の中を探検したり、測量したりする全国でも珍しいサークルです。

入る洞窟は主に美祢市の秋吉台の洞窟です。秋吉台は日本最大のカルスト台地で、有名な秋芳洞をはじめ、現在およそ450もの洞窟があります。中には、私たちの先輩が発見し命名したものも多々あります。最近では、長崎県の七ツ釜鍾乳洞の測量や洞窟探しもしています。

洞窟に入るためにはさまざまな技術や訓練が必要です。それで私たちは日々のトレーニングに加えて、洞窟について学ぶ学習会や技術修得のための訓練も行っています。さらに、日本洞窟学会にも参加し、他団体との交流も深めています。また、洞窟内での万一の事故に備えてレスキュー訓練を実施し、より安全な活動ができるよう、常に心がけています。

洞窟の中は真っ暗な闇が広がっています。洞窟は何千年、何万年とかけてできあがり、今もなお変化を続けています。洞窟の暗闇のなかには長い歴史が詰まっているのです。



秋吉台の寺山P1の穴での訓練



清水洞（長崎県西海市）での測量

練習日：月・金曜日 18:00~、水曜日 16:30~
練習場所：体育館屋上（トレーニング・訓練）
URL：<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~speleo/>

ピックアップサークル

美術部の活動の一部を紹介



山田 壮一

美術部

理学部生物・化学科 2年

どうもこんにちは。山口大学文化会美術部です。私たち美術部は普段、「BOX」と呼ばれる部室で部会をしたり、それぞれ自由な時間に集まって作品を作ったりしています。普段は週2回部会を行っており、部の活動について話し合います。また、年に2回、春と秋に「パンのみみ美術展」を作品の発表の場として開いています。作品の種類としては、油絵や水彩画をはじめとしてさまざまなものを制作しています。

基本的に活動は自由なので興味があるジャンルにはどんどん挑戦していきます。作品作りだけではなく「BOX」で仲間と楽しく過ごすことも醍醐味の1つです。大学生ならではの「BOX」に宿泊やお酒など、新入生の方はわくわくしてきますね。もちろん、お酒は20歳になってからです。

自分が一生懸命になれることがあるとやっぱり毎日が充実します。これからも自分が真剣になれることをどんどん探していきたいです。皆さんもぜひ見つけてください。そのためには美術部以外にもいろんな部活をたずねてみてください。



活動場所：部室

活動日：月・水・金 18:00~

URL：<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~artclub/>

新入生歓迎フェスティバル

4月10日(土)12時から、吉田キャンパスの共通教育棟周りで、新入生歓迎フェスティバルが開催されます。100を超えるサークルがブースを設け、新入生に活動内容を紹介します。また、ステージや教室内では実演も行われます。

新入生にとって、大学のサークル活動を知ることのできる最初のイベントです。

山口大学文化会邦楽部



来栖 一穂

邦楽部

理学部物理・情報学科 2年

私たち邦楽部は名前のとおり邦楽器を練習、演奏することを主な活動とするサークルです。主に三絃(地歌三味線というもので邦楽ではこう呼びます)、琴、尺八等の邦楽器を扱います。現在部員は30人程で毎週火曜、木曜の18時~20時と土曜の9時~12時にサークル棟の和室で活動しています。また、週に1~2回外部から先生をお呼びして基礎練習や演奏会の曲をご指導いただいています。

「邦楽は難しく初心者には厳しいのでは?」とよく入部を考える1年生から質問されるのですが、部員のほとんどは大学から邦楽を始めた初心者だらけの部活なので、気軽に誰でも入れます。

普段は年1回開催する定期演奏会にむけて練習をしており、平成22年度は12月11日(土)13時に第43回邦楽部定期演奏会を開催する予定です。ほかにも老人ホームやアートふる山口、3都市・3大学国際シンポジウムの食事会等のイベントでも演奏をしてきました。普段の活動風景は、ホームページにて不定期ですが紹介をしています。興味をもたれた方はぜひご覧ください。



練習場所：サークル棟和室

練習日：火・木 18:00~20:00、土 9:00~12:00

URL：<http://happy.ap.teacup.com/yuhougakubu/>

共通教育科目「知の広場—人と学問—」について

大学教育機構大学教育センター 准教授

吉田 香奈

共通教育の面白さ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。いよいよ山口大学での新しい知の探求のスタートですね。大学に入学したからには1日も早く「専門教育」を学びたい、と思っている人もきっと多いことと思います。しかし、大学の醍醐味は専門の授業だけでなく、幅広い教養を身につけるための「共通教育」の授業を履修するところにあります。共通教育の授業は好奇心や探求心が刺激されるものが多く、受講後には多様な見方や考え方ができるようになります。これまで関心のなかった分野でも学んでみると実は面白いと思うことが多いものです。皆さんにはシラバスを読んで少しでも関心をもった授業があれば積極的に受講してほしいと思っています。数多い授業の中からどれを最終的に選ぶかはあなた次第です。



共通教育科目「知の広場」とは？

山口大学の基本理念の一つに「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造が掲げられています(山口大学憲章より)。これは、本学が21世紀の多様な課題を「発見し・はぐくみ・かたちにする」豊かな「知の広場」として、学生の皆さんに質の高い教育を提供していこうとする考えです。

実は、共通教育ではこの基本理念がそのまま科目名になった授業が開講されています。共通教育科目「知の広場—人と学問—」です。この授業は総合科目の授業として平成17年度からスタートした授業であり、平成22年度で6年目を迎えます。授業は前期と後期にそれぞれ1コマずつ開講されています。

前期「知の広場」の授業

前期の授業は学長、副学長、学部長等がオムニバスで授業を担当しています。受講者は新入生に

限定されています。これは山口大学に入学したばかりの学生が本学や各学部の設立・発展の経緯、現状、学問分野の概要を知ること、本学を深く理解し、本学の学生としての自覚を持つことに主眼が置かれているからです。授業を担当される先生方は素晴らしい教育者であり、かつ各学問分野のトップレベルの研究者でもあります。この授業を受講し終えた学生からは「山口大学をよく理解できた」「山口大学に在学していることを誇りに思えた」「専門分野の話は難しかったが興味をそそられた」「視野が広がった」といった感想が寄せられています。

後期「知の広場」の授業

また、後期は本学と関係の深い外部の有識者の方々に講義をお願いしています。後期は1年生だけでなく上級生も受講が可能となっています。平成21年度は現職または退職された企業会長・社長・取締役6人、研究所理事長・理事、教育長、大学校長、博物館館長、元高等学校長、漫画家、新聞社編集委員、県警それぞれ1人の合計15人の先生方に授業を担当していただきました。山口県内だけでなく県外の方も多く、また、本学の卒業生も数人含まれています。授業では各領域の概要、講師自身の職業人としての体験が紹介され、学生時代にしておくべきことについてのアドバイスも行われています。これは社会や人間について問題意識を持ち、目標を持って大学生活を送れるようになることに重点が置かれているためです。受講者からは「実際に社会で活躍されている方々のお話を聞くことができ、とても勉強になった」「将来について考える機会になった」「自分の進路に影響があった」といった感想が寄せられています。

新入生の皆さん、教室でお会いできるのを楽しみにしています！



弘兼憲史氏（漫画家・山口大学客員教授）による講義の様子（講義テーマ「島耕作論と黄昏流星群論」2010年1月13日）

▶ 学内連絡先

TEL：083-933-5067

E-mail：ykana@yamaguchi-u.ac.jp

特待生制度と学長表彰

山口大学には、学生の優れた勉学、研究、課外活動などに対して支援・表彰するさまざまな制度があります。ここでは、特待生制度と学長表彰について紹介します。

特別待遇学生(特待生)制度

在学中の学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる学部学生に対し、前期・後期ごとに選考の上、各期分の授業料の半額を免除する制度です。1年生は後期から実施され、努力次第で継続して特待生となることもできます。

特待生の人数は各学部各学年2人以上(医学部・農学部の5・6年生については各学部各学年1人以上)です。

学長表彰

勉学、研究、課外活動、社会貢献等で優れた業績を挙げた学生を、入学式または卒業式で学長が表彰します。

具体的に表彰対象となるのは、体育系の課外活動では、①全国大会において第3位以上の成績、②全国大会に都道府県代表として出場した者、③中国・四国地区大会以上の大会において優勝、④中国五大学学生競技大会において3連覇などで、文化系の課外活動では、中国地区大会以上の大会において優秀な成績を挙げた団体等となっています。

また、その他の例として、昨年11月にときわ遊園地(宇部市)において、ペットボトル10,482本を使用して7.39mのタワーを作製し、「ボトルで作る世界一高い彫刻」でギネス世界記録を達成した学生たちが学長表彰を受け、記念品として置き時計が贈呈されました。



新入生
必携!

吉田キャンパス・マップ

医学部・工学部の学生も1年次は山口市の吉田キャンパスで、
共通教育科目の授業を受講します。
吉田キャンパスにあるさまざまな施設を紹介します。



① 第2学生食堂きらら
● 営業時間
● 月～金 8:00～19:30



● 埋蔵文化財資料館

● 開館時間
● 月～金 9:00～17:00
● 山口大学の各キャンパスは遺跡
● の上に立地しており、出土品の
● 収蔵、展示、研究をしています



② 大学会館
● 約300人収容のホール、会議室、
● セミナー室、和室等があります



● 総合図書館

● 開館時間
● 月～金 8:30～21:45
● 土日 11:15～18:45
● 165万を超える蔵書数、情報コ
● ンセント、談話室など充実した
● 環境が整っています



③ O-HARA山口大学就職支援施設
● キャンパス内で、公務員、公認会計
● 士、税理士などの資格講座を受講
● できます

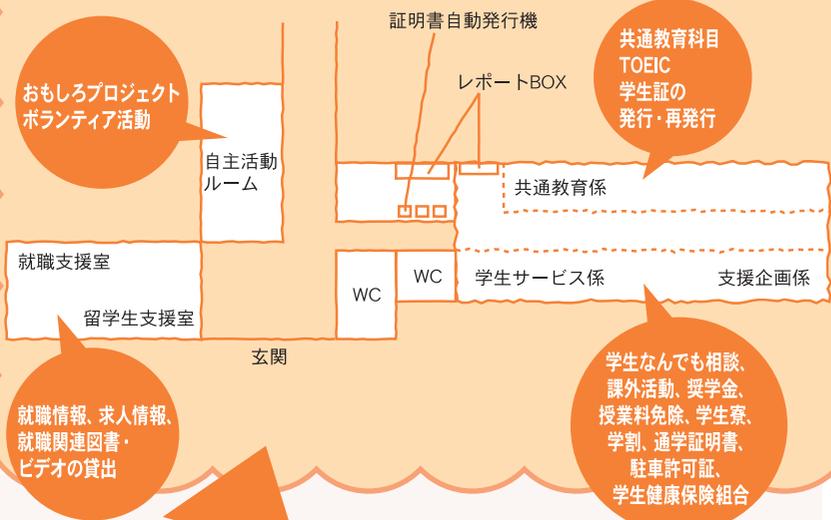


● ビオトープ

● ホタル舞うキャンパスをめざして、
● 学生たちが整備しています



IF 学生支援部フロア・マップ



7 ラウンジ
共通教育棟各階、各学部があり、自由に使用できます



8 第1学生食堂ポール
営業時間
月～金 8:00～20:00
土 10:00～14:00



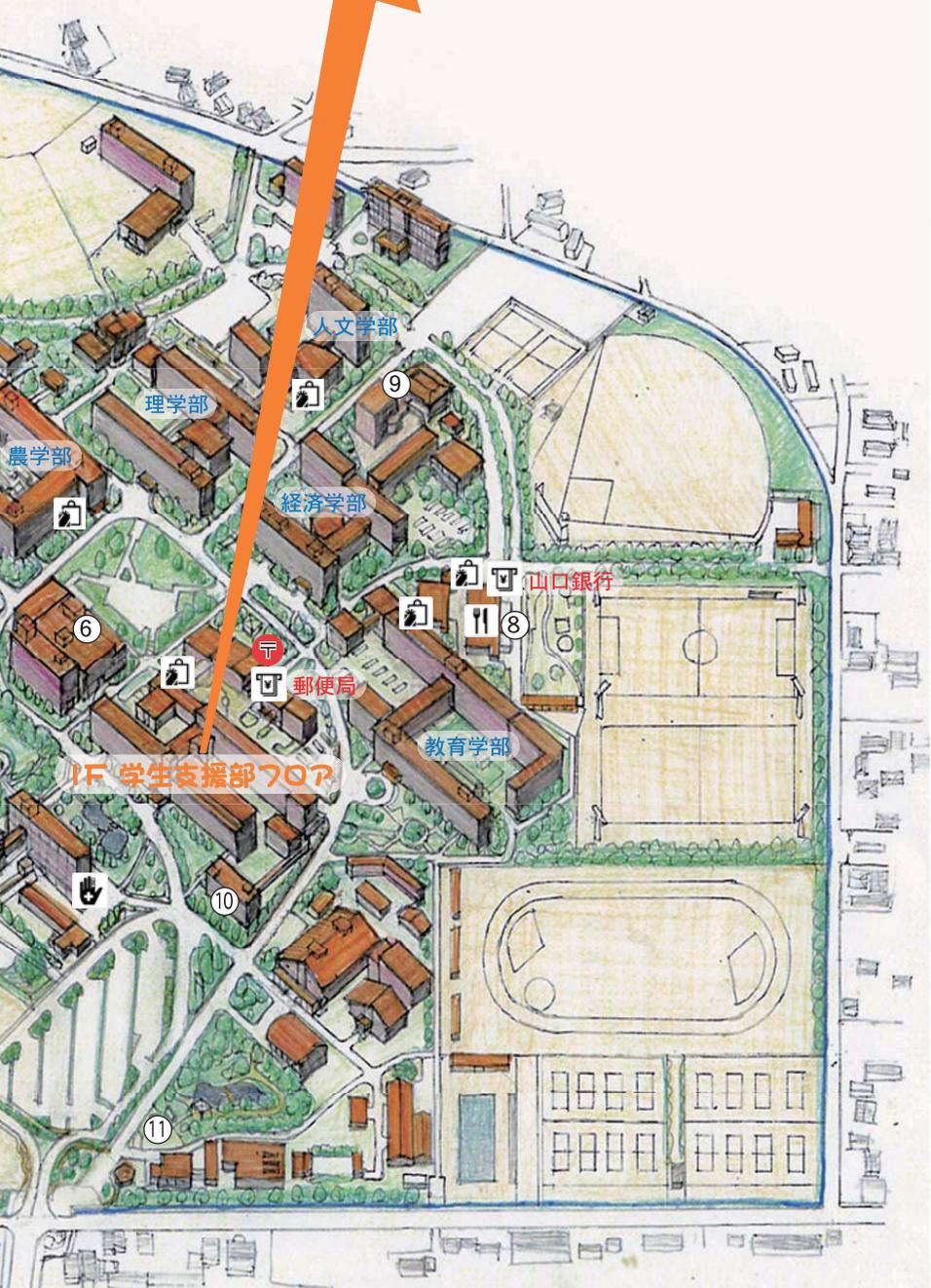
9 商品資料館と東亜経済研究所
戦前の輸出品や中国関連の書物や資料を所蔵・展示している経済学部の附属施設です



10 学生相談所
月～金 11:00～18:00
工学部サロン
月～金 14:00～18:00



11 長州五傑碑
ロンドン大学との学術交流協定締結を記念して建立
長州五傑とは、日本の近代化に尽力した伊藤博文ら5人



山口大学2010年度行事予定

- | | |
|-------------|--------------|
| 4月5日 | 入学式 |
| 4月6日~8日 | オリエンテーション |
| 4月9日 | 前期授業開始 |
| 4月10日 | 新入生歓迎フェスティバル |
| 7月23日~8月5日 | 前期末定期試験期間 |
| 8月6日~9月29日 | 夏期休業 |
| 8月6~8日 | オープンキャンパス |
| 9月30日 | 後期授業開始 |
| 10月 | 体育会体育祭 |
| 11月6日 | 姫山祭 |
| 11月 | 医学祭、常盤祭 |
| 11月下旬 | 学長杯駅伝大会 |
| 12月25日~1月7日 | 冬季休業 |
| 1月28日~2月10日 | 後期末定期試験期間 |
| 2月11日~3月31日 | 学年末休業 |
| 3月16日 | 大学院学位記授与式 |
| 3月22日 | 卒業式・修了式 |



オープンキャンパスの学生企画などを担当している「CAMゼミ」の高校生の進学サポートを行っています。
E-mail: cam_semi@yahoo.co.jp



学生目線で山大の情報を発信する広報学生スタッフ「YU-PRSS(ユープラス)」の課外活動などを取材し、Webページ「キャンパスライフ」で公開しています。取材依頼・スタッフとも随時募集中です。
http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20-web/
E-mail: campus@yamaguchi-u.ac.jp

山口市のイベント情報

吉田キャンパスのある山口市では、年間を通してさまざまなイベントが催されます。主なイベントを紹介しますので、出かけてみてはいかがでしょうか。

4月3～4日 湯田温泉白狐まつり



白狐が温泉を発見したという伝説にちなんで行われる祭り。狐の面を付けた子ども達が練り歩く「たいまつ行列」や白狐をテーマに踊る「湯田温泉総踊り」が必見です。

4月上旬 一の坂桜まつり



市街地を流れる一の坂川の両岸には約200本の桜並木が咲き誇り、夜には桜をライトアップ。

5月下旬～6月上旬 ほたる鑑賞の夕べ



市街地を流れる一の坂川に乱舞する国の特別記念天然物「ゲンジボタル」を鑑賞するイベント。

7月20日～27日 山口祇園祭



室町時代に大内氏が京都から歓請した八坂神社の例祭で、現在に至るまで約600年もの間続いている伝統ある祭。

8月6日～7日 山口セタちょうちんまつり



大内氏の盆ちょうちんを受け継ぐ、約500年前から続く伝統の祭。数万個の紅ちょうちんが街中を幻想的な光で包み、総踊りなど、イベントも盛り沢山。

8月下旬 えび狩り世界選手権大会



車エビの養殖発祥の地・秋穂で開催。年々参加者が増え、参加するには20倍以上の倍率を突破する必要があります。

9月中旬 山口ゆらめき回廊～古の灯がともる西の京～



香山公園内の瑠璃光寺五重塔付近の散策路に約1,000個のキャンドルライトを点灯し、幻想的な古の灯りに包み込まれます。

10月上旬 アートふる山口



「一の坂川」から「豎小路」筋周辺の民家やお店など、約120軒を手作りの小さな美術館に見立て、懐かしいものなど、さまざまな展示品を公開。

11月上旬 あいお花火まつり



秋に開催される花火大会。

11月23日 山口天神祭



参勤交代を再現した備立行列が菅原道真を祭る古熊神社からお旅所まで約3キロ余の道を練り歩く祭。

12月 日本のクリスマスは山口から



山口市は日本で最初にクリスマスを祝った都市。パークロードでイルミネーションを点灯。

吉田キャンパスにおける里山整備

吉田団地は、統合移転前（昭和39年頃）までは農業集落であったために、田圃や山林が敷地全体の約4割を占めており、国立大学の中でも特に自然環境豊かなキャンパスと言えます。

この貴重な自然環境を有効に活用すべく、山間の遊歩道の整備などを過去に行ってきましたが、近年は、人や経費面の問題から、十分に管理が行き届かない状況にあり、竹林の拡大防止のためにも計画的な管理・利用方法を考えることが課題でした。



整備前の遊歩道

この自然環境を教育・研究活動の場として、また、学生・職員ほか地域住民が思慮し、憩い、癒される場として利用することを目的として、平成20年12月から平成21年3月まで数回に渡り、竹の繁殖を防ぎ山林の荒廃を防止することと併せ、環境整備事業の一環としての伐採作業を行ってきました。

この作業を通じて環境問題に対する意識の高揚を図るため、学生団体・ゼミ等にも参加の呼びかけを行い、14団体延べ約180人が集まりました。そして、竹伐採作業に協力した学生団体等を顕彰するため、山桜の幼木を植栽し、それに協力団体名を記したプレートを取り付けることとしました。



竹林の伐採作業に励む学生たち



植樹記念プレート

引き続き、平成21年度も12月から2月にかけて、5団体85人が参加して伐採作業を行いました。伐採した雑木や竹は、小さくチップ化してキャンパス内の樹木類の堆肥や菖蒲池の水質浄化材として有効に活用しています。

交通動線の改善に向けた正門周辺の環境整備や吉田寮2号棟（男子寮）の新築および吉田寮1号棟の改修とあわせて、里山の整備が急速に進展しているところです。

また、正門から里山に続く道には、オオガハス池、ビオトープ、桜などの整備も進んでおり、地域の方たちにとっても、季節の変化をより感じることできる、気軽に立ち寄ることのできるキャンパスになろうとしています。

里山の場所はP13のキャンパスマップで確認 



整備を終えた正門駐車場

問う力を

真野 純一

総合科学実験センター 准教授

■ 共通教育科目「生物学II」

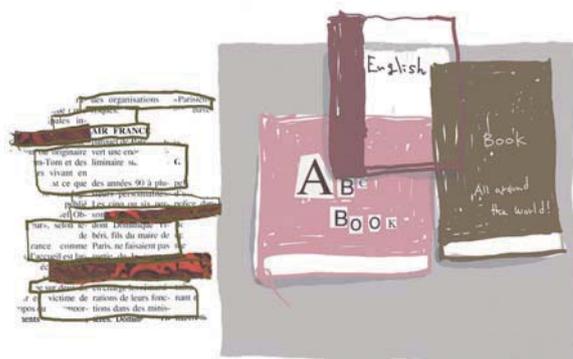
8年間担当したこの授業では、食べ物から生物がエネルギーを得る過程（エネルギー代謝）の生化学と熱力学的基礎を講義し、食べ物を介した生命と生命のつながりの理解をめざしました。解糖系、クエン酸回路、酸化リン酸化は高校生物でも習う内容ですが、化学や物理の知識も必要であり、生物を履修しなかった人には複雑で、ほとんどの受講者には何かしら難しいところがあったようです。

■ 「わからない」ことが大事

授業で新しいことを説明するたびに必ず「質問は？」と尋ねますが、残念なことに授業中に質問が出ることはまずありません。しかし、質問には大きな効用があります。一人ひとりの理解はそれぞれ違いますから、みな固有の「？」を持っています。疑問をはっきりさせることで、自分が何を解決すべきかが明らかになります。そうすれば理解へは一本道です。さらに、この個人的疑問を授業中に質問すると、他の受講者にも大きなプラスになります。「あ、俺も同じところが分からなかった」、あるいは「え、そんな疑問があるんだ」というたくさんの「？」「？」「？」が新たに生まれ、教師がその問に答えることによって、多くの人が一段階上の理解に達します。

■ 空気を読むな

授業中に質問すると恥ずかしいとか、授業を遅らせることが気になるかもしれません。しかし、周囲の状況を気にして、自分の中に起こる「？」を封じ込める癖がつくと、次第に疑問自体をもつ力、自分で考える力が弱くなってしまいます。大学教育の目的は、独自の問いをもち、自ら考える力を養うことです。「空気を読む」のはこれと対極の態度です。世間では空気を読まなければなりません。せめて大学の学問の場では、そうした呪縛から自由になって、素朴に「分からない」と言い、しつこく「なぜ？」と問う力を培ってほしいと願います。それこそがこれから世界に出る日本人が求められる「コミュニケーション能力」の基本だからです。



▶ 学内連絡先

TEL : 083-933-5945

E-mail : mano@yamaguchi-u.ac.jp

青年期における道德意識ゆらぎ— 「2度生まれ」の可能性

高橋 征仁

(准教授 人文学部社会学講座)



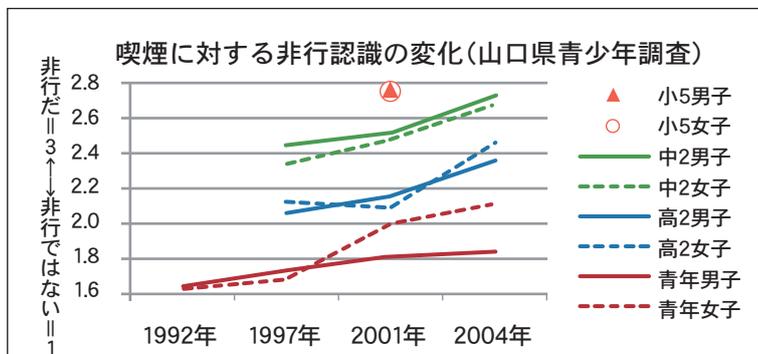
私の研究テーマは、青年期の道德意識やアイデンティティに関して、「ゆらぎ」のプロセスやメカニズム、社会的機能を明らかにすることにあります。このように説明すると、年配の先生方は決まって、「近頃の若者は規範意識が低下している」と力説して、私に同意を求めてきます。そのたびに私は、「いやいや、団塊世代ほどひどくないでしょう？」と意地悪な反論をしたくなります。というのも、そうした若者批判は、他の差別や偏見と同様、自らを自明視し、集団間の差異を粗雑に単純化することで成り立っているからです。女性やマイノリティに関しては決して許されない、カテゴリーの単純化が、若年者に対しては公然と適用されてしまうのは、実に不思議なことです。

むしろ私は、青年期の「ゆらぎ」現象によって、人間が生活環境の急激な変化や多様化に適応できるようになったと考えています。生物学的な成熟の後に、自己決定に基づいて、自分の考え方や生き方、

さらに生活構造まで書き換えることができるのは、おそらく人間だけでしょう。しかも、この「2度生まれ」は、マルティン・ルターが登場以来、社会的に制度化され、社会の近代化を推進してきました。

ただし、この「ゆらぎ」現象を科学的に解明するには、道德意識に関する従来の研究枠組み—規範をモノに準え、その伝達や内面化として説明する—を変革する必要があると感じています。むしろ「免疫系」の比喻を用いた方が、道德意識研究は格段に進歩すると考えています。すなわち、①道德意識は、問題（病原体）を識別・処理する自我の防衛システムであり、②原初的な拒絶反応と逆転写的なロジック（リバース・エンジニアリング）から重層的に構成され、③個々の典型的問題に応じた規範のモジュールとして機能し、④社会的経験を通じて、より特異的な問題処理が可能になっていく、と捉えるのです。

こうした免疫系モデルによって、青年期の「ゆらぎ」現象だけでなく、道德哲学の基本問題—普遍的か相対的か、生得的か経験的か、合理的か非合理的か、認知的か情緒的か—の解明も、大きく前進すると考えられます。これまで1つの実体として想定されてきた道德意識が、特性や機能、メカニズムを異にする問題処理機構の複合体であるとするれば、これらの2項対立は、簡単に解消されることになるからです。



中学生から青年（18～24歳）までの間に、喫煙に対する非行認識は大きく低下していく。しかし、この発達的な弛緩現象を媒介として、喫煙規範の意味は、時代的に大きく変容してきた。すなわち、未成年の喫煙は、年齢や性別などの属性規範からの逸脱としてではなく、間接的な他者危害や依存症などの自己危害を伴う問題として認識されるようになった。

▶学内連絡先

TEL : 083-933-5243

E-mail : takahasi@yamaguchi-u.ac.jp

コンピュータによる パターン認識

浜本 義彦

(教授 大学院医学系研究科

応用分子生命科学系専攻)



■はじめに

パターン認識とは、人が行うような認識判断の機能で、ここではコンピュータによるパターン認識を説明することにします。パターン認識の最初の成功例は、文字認識であります。身近な例では、郵便番号はコンピュータによって読み取られ、郵便物の自動区分け装置が、年賀状の時期になるとフル稼働して活躍します。この区分けは人間ではできないほど大量の煩雑な作業であります。これをコンピュータが人に代わって行っているわけです。この他に、パターン認識技術は、顔認識や指紋同定などのセキュリティに欠かせない要素技術になっています。

このようなパターン認識技術の最近の話題を、当研究室の研究を通して紹介することにします。

■外観検査への応用

製品は出荷する前に検査が行われ、その検査をクリアしたものだけ出荷されます。日本製品の高信頼性はこの検査にかかっていると言っても過言ではありません。検査にはさまざまなものがありますが、今、外観検査が注目されています。この外観検査では人による目視検査が主流ですが、目視検査を長時間行うことは、人に多大な負荷を強いることとなります。この目視検査を人に代わってコンピュータに行わせようというのが目的です。検査対象は、①コンクリート構造物、②自動車の車体です。

まず、コンクリート構造物では、ひび割れの自動検出を目的とします。通常、構造物は屋外にあり、表面には汚れ、影、水漏れなどがある中で、ひび割れを検出しなければなりません。このため画像処理によって画質を改善してひび割れを強調して検出しています。

次は、自動車の車体にある線状のキズ検出です。現状は、人による目視で検査を行っていますが、わずかなキズも漏らさず長時間、安定的に検出することは人では困難となっています。そこで、キズの画像化（イメージング）とその検出（画像処理と画像認識）を組み合わせることで、人の検出精度を長時間達成することが可能となりました。これにより、人の負担を軽減させることができます。

■癌診断への応用

C型肝炎の問題はご存知でしょう。このC型肝炎から肝臓癌へ病気が進行することが知られています。肝臓癌は難治性の高い癌の一つであり、それを克服するには早期診断、早期治療が有効であります。肝臓の検査では超音波検査がよく知られていますが、医師により一人ひとり検査するために時間がかかり、多くの方を大量に検査することに難があります。そこで、血液検査だけで肝臓癌か否かを診断できるシステムの開発を、医学部と共同で行っています。

■おわりに

このように、コンピュータによるパターン認識は、さまざまな分野で人に代わって活躍しています。まだまだ完成された学問分野ではありませんので、若い方の参加は大いに歓迎します。可能性を秘めたパターン認識の研究に取り組んでみませんか。

▶学内連絡先

TEL : 0836-85-9515

E-mail : hamamoto@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書



『組織進化論 自己組織化と事例研究』

(創成社 2009年10月発行)

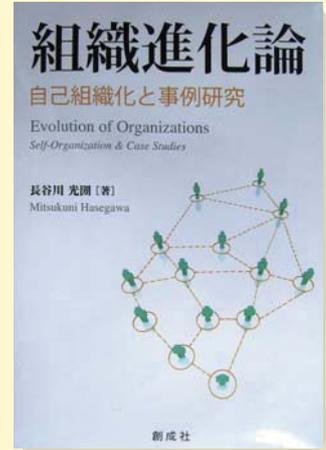
本書は、組織構造の進化についての理論と実証研究です。問題の所在は、社会組織系には、周知のように同調過剰、訓練された無能力、セクショナリズム、無責任体質等の固有の問題があり、これらの問題は、適宜な構造進化によって解決されることを実証しています。

社会組織系において、構造進化の理論はまだ存在していません。したがって、理論は自然科学系の散逸構造論（プリゴジン）と進化論（カウフマン）に依拠し、実証事例研究はトヨタとソニーを対象としました。前者は、自己組織化理論として一大勢力を形成しつつあり、それは、世界は常に秩序から混沌（あるいは熱死）へ進化を続ける運命にあるとしたエントロピーの法則に対して、混沌から秩序への進化が生ずるという新仮説を提唱しています。後者は、わが国を代表するエクセレント・カンパニーであり、この意味で最も良い検証対象となっています。

加えて、例えば、系が非線型に従っているとすれば、平衡から遠く離れたところで増大する不確実性、多様

性、複雑性の混沌状態で自ら進化を遂げるという場合には、検証のためにさらに進化値（相転移値とも言う）が必要です。これには、自ら相当の事例研究から発見した45%の進化値を活用しました。実証結果は、総じて自己組織化理論の新仮説は妥当し、また進化値45%もほぼ妥当するということになりました。

この研究に対して、多数の研究者（現在28人）から好評のメールをいただいております、広く組織動態理論の展開に寄与することができれば幸いです。



長谷川光圀 教授 経済学部 経営管理講座
TEL : 083-933-5542 E-mail : mitukuni@yamaguchi-u.ac.jp



『日本地方地質誌6 「中国地方」』

(日本地質学会編集 朝倉書店 2009年9月15日発行)

金折教授

中国地方の地質は、古生代初期から中生代を経て新生代に至るほとんどすべての時代を網羅しているとともに、日本列島形成に関わる主なイベントで生成された地層や岩石から構成されています。また、他の地方に比べて、新生代の地層や火山噴出物が少なく、中生代と古生代の地層が広く露出していることで特徴づけられます。このような地質的な特性に加えて、古くから交通が便利であったために、明治以来多くの地質学者がこの地を訪れ、早くから研究が行われてきました。

昭和25（1950）年に日本地方地質誌『中国地方』（小林貞一著、朝倉書店）が出版されました。その後、昭和59（1984）年に編著者4人と10人の執筆者によって『中国地方 新版』が出版されています。それに続く本書は、21世紀の日本の地質学を目指す学部レベルの専門書として、最新の情報や成果をふんだんに盛り込み、将来の学問の発展を図ることを目標に出版されました。

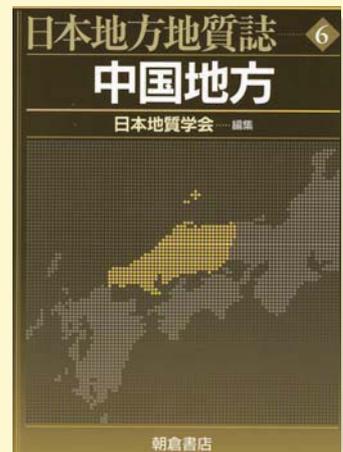
本書の章立ては旧版を踏襲して古い時代から新しい時代の地質系統の区分を基本とし、主要な地質イベントによる区分を加えた10章から構成され、総536ページの圧巻です。編集委員長は西村祐二郎名誉教授、副編集委員長は君波和雄名誉教授、12人の編集委員のうちには、今岡照喜教授と金折裕司教授が含まれています。さらに執筆者は63人も及び、これには大和田正明教授、鎌

田祥仁准教授、千々和一豊教授、宮田雄一郎教授、武田賢治教授が含まれます。千々和教授と武田教授は教育学部所属ですが、それ以外はすべて理学部地球圏システム科学科です。

本書は、今後の地質学の研究・教育だけではなく、土木・建築事業など社会基盤整備の基礎資料として役立つことを期待し、多くの方々に広く活用してもらいたいと思います。



今岡教授



金折裕司 教授 大学院理工学研究科 地球科学分野
TEL : 083-933-5753 E-mail : kanaori@yamaguchi-u.ac.jp
今岡照喜 教授 大学院理工学研究科 地球科学分野
TEL : 083-933-5765 E-mail : imaoka@yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

バンクーバー・オリンピックの余韻が未だに頭の中を漂っています。全力で勝利を目指す選手たちの姿に感動する毎日でした。選手はこの4年間オリンピックを目標にして努力を重ねてきたのですが、代表に選ばれなければ出場できないわけで、そのために日々の練習で力を付けて、国内の試合、ワールドカップなどの国際大会で実績を挙げる、という目標の設定と達成を繰り返してきたのでしょう。4年間の努力の日々は、順位よりも大切なものではないかと思えます。

考えてみれば、大学生活も一部の学科を除き4年間です。学生生活も卒業・就職という目標に向かって、日々の勉強、試験、実験や演習、ゼミ、そして卒業論文と、目標を設定し達成させていくことの積み重ね。そんな思いが沸いてくる今日この頃です。

今回の広報誌の特集は「新入生特集」です。新たに大学生活を始める新入生諸君の学生生活の助けになるように編集を行いました。新入生の皆さんが充実した日々を過ごせることを願っています。(藤間 充)

©山口大学Webページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報誌第九十四号

平成二十二年三月二十五日発行

編集発行 山口大学広報委員会

(総合企画部広報チーム)

住所 山口市吉田一六七七一

電話 (〇八三) 九三三一五〇〇七

FAX (〇八三) 九三三一五〇一三

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

(本紙に関するご意見・ご感想をお寄せください)

印刷 ㈱マルニ

広報委員会委員

村田 秀一 (総務企画担当副学長)

長畑 実 (総務企画担当副学長補佐
エクステンションセンター)

坪郷 英彦 (人文学部)

菊屋 吉生 (教育学部)

成富 敬 (経済学部)

岩尾 康宏 (理学部)

坂井田 功 (医学部)

浜本 義彦 (工学部)

藤間 充 (農学部)

何 曉毅 (大学教育機構)

近久 博志 (産学公連携・イノベーション推進機構)

小河原加久治 (大学情報機構)

松田 博 (アドミッションセンター)

中尾 淑乃 (総合企画部広報チーム)



YAMAGUCHI UNIVERSITY

山口大学

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報委員会 2010年3月発行